



小水力の発電所を視察する党愛知県議団

再生エネルギー普及に全力

党議団 小水力の発電所を視察

知・郷町
愛東

再生可能エネルギーの活用策を調査するため、公明党愛知県議団(渡会克明団長)はこのほど、同県東郷町の独立行政法人水資源機構「愛知用水総合管理所」(石村忍所長)を訪問。中でも、小水力発電の取り組みが注目を集めている愛知用水東郷発電所を視察し、関係者と意見交換を行った。

同発電所では、東郷調整池にためられた水を、最大約21層の落差がある水路に流す際に、そのエネルギーを

利用して水車を回転させて発電している。発電量は最大1000キロワットで、年間約7300キロワット(一般家庭の約2000世帯分)に。

小水力発電は、発電効率が良く、天候に左右されない上、二酸化炭素(CO₂)排出量が極端に少ないことから、自然の恵みを最大限に生かしたクリーンエネルギーとして期待されている。

党議団一行は、関係者から説明を受けた後、発電機室などを見て回った。

渡会団長は、「小水力発電など再生エネルギーは、今後ますます必要になる。それらの普及に向けて、県としても全力で取り組む」と語っていた。